

# 令和元年度 学校評価報告書

島根県立松江工業高等学校 全日制課程

重点目標	(1) 人権尊重教育の推進
	(2) 規律ある生活態度の育成
	(3) 基礎学力の向上
	(4) キャリア教育の推進
	(5) 部活動の推進

4段階評価	A	ほぼ出来た	3.2 以上
	B	概ね出来た	2.6~3.2
	C	やや不十分	2.0~2.6
	D	不十分	2.0 未満

アンケート調査結果(数値1~4で回答)の平均値による区分 ※0:わからないは除く (4:よく出来ている 3:大体出来ている 2:あまり出来ていない 1:出来ていない 0:わからない)

教育目標	本年度の目標	担当 分掌	学校評価質問項目	教職員 評価	生徒 評価	保護者 評価	自己評価		学校関係者評価		改善策
							評価 (昨年)	結果概評	コメント	評価	
次世代を担う社会に有為な形成者として、人権を尊重し人類の平和と発展に寄与できるすぐれた資質を養うため、次の三つを掲げる。 (一) すぐれた知性 (二) 高い品性 (三) 健康な身体	学力の向上 (わかる授業・家庭学習奨励)	教務	補習授業や指導方法の改善を図る。	B 2.9	B 3.0	B 2.9	B (B)	家庭学習及び自主学習の習慣を身につけさせることを目的に、今年度も定期試験前の放課後学習を実施した。多くの生徒が真剣に取り組んでいた。教員研修の一環として、教員全員を対象に公開授業を実施した。昨年整備されたICT機器の活用法も含め授業展開の工夫した点を教員間で共有するよい機会となった。この取り組みは常にわかる授業を行うための一助となると考える。	学力向上に向け、いろいろな工夫がなされている。教員全員を対象に公開授業をされ、研修をされて、とても意欲的に感じた。生徒の自己肯定力、自覚心が向上していることを評価する。	B (B)	資格、検定試験の合格率を分析し、補習体制の強化につなげる。「マナトシ」や「学びの基礎診断」を利用し基礎学力向上のためのPDCAサイクルの構築を図る。提出物の期限厳守を徹底するよう指導を強化する。
			課題等の提出期限厳守家庭学習の習慣化を図る。	B 2.7	B 2.7						
	進路実現力の向上 (職業理解、進路・資格指導)	進路	「進路だより」等による地元企業の情報提供や個別面談・三者面談の充実を図る。	A 3.2	A 3.2	A 3.2	A (B)	進路ガイダンスや進路講話、地元企業見学、インターンシップ等様々な体験学習を通して進路意識の高揚ができた。特に2・3年生の進路ガイダンスでは、保護者にも参加していただき地元企業の情報提供を行った。進路だよりの発行回数を増やし進路情報の充実を図った。資格・検定試験については情報提供し、各学科で熱心に指導を行った。各クラスで個別面談や三者面談を実施し学校・家庭との連携に努めた。	資格取得は技術職には絶対条件になっている。取得を勉学の励みとして受検の機会を増やしたり、取得の過程を大切にしてほしい。求人数の変化に影響を受けないように今後も取り組む必要がある。	A (B)	生徒の様子や取得状況等を「進路だより」で情報発信し、さらなる取得意欲の喚起と進路意識の向上を図る。各学年に応じた進路情報の提供に努め、三者面談の活性化に取り組む。
			資格・検定情報を提供し、取得のための指導を積極的に行う。	B 3.1	A 3.3	A 3.2					
	礼節・規律・生活習慣の確立	生徒	学校生活生活における礼節とマナーの定着を図る。	B 3.1	A 3.2	A 3.2	A (A)	日常的に頭髪・服装・挨拶について、指導を継続することにより、効果が上がっていると考えている。生徒の自己評価も高かった。学校内外でのマナー向上の指導を更に充実させる必要がある。学校いじめ防止基本方針との改善といじめの早期発見と対応に引き続き努めたい。	学校内の挨拶は、他校に比べてもよい。学校を訪問すると生徒の身だしなみがよく、指導の効果は高いと思う。登下校の生徒が、横断歩道で止まった車両に頭を下げる姿を見て嬉しかった。	A (A)	挨拶については、地域においても進んで行えるように取り組む。自転車のマナーについて、街頭指導等を行いマナーアップに取り組む。
			積極的な挨拶の定着を図る。	A 3.3	A 3.4						
	部活動の推進	生徒	部活動を奨励し、健全な心身の育成を図る。	A 3.2	A 3.2	A 3.2	A (B)	それぞれの部活動で、活性化が図られ成果を上げた。保護者との連携を密にして指導に当たりたい。	部活動を通して学ぶことが多いように思う。部活動に一生懸命取り組まれており、これからも結果だけでなく健全な心身の育成を望む。	A (A)	引き続き、入部率90%以上を目指す。
			ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。	B 2.8	C 2.2	B 3.0					
人権尊重を基底とする教育活動の支援	人権	校内研修等で得た情報や知識を常に心がけ、人権に配慮した発言・指導を行う。	B 3.0	B 3.1	B 2.9	B (B)	今年度HRの再編成や内容の充実を図ったことが、生徒評価の向上につながったと考えられる。一方で教職員のニーズに合わせた研修会の設定や保護者への校内での取り組みの周知に課題を残した。	教職員の方の日頃の接し方が大切で、良くできていると思う。人権教育はどこでも難しいが、継続して行うことが必要と思っている。	B (B)	PTA会報での広報以外に、年に数回の保護者向けのお便りを発行して、活動状況をお知らせする。	
校内美化の推進	保健	校舎内の清掃等、環境整備が十分に行われている。	B 3.0	A 3.3	A 3.3	A (B)	日頃の清掃、定期的なワックスがけ等により良好な学習環境が維持されている。	日頃、学校に行かせてもらうと、全体的に環境整備ができていていると思う。いつ来ても学校がきれいである。	A (A)	快適な校内環境を維持するため、清掃用具を整備し、毎日の清掃に力を入れる。	
校内活動の広報活発化	総務	HP・広報活動が十分に行われている。	B 3.1			B (B)	HPでは校内行事等の情報発信を速やかに行った。PTA会報を年間2回発行し、情報の共有に努めた。中学生・保護者対象の専門高校説明会、一日体験入学、中学校教員対象の高校説明会を実施した。	一日体験入学はとても良いと思っている。中学生などに対して、もう少し工業高校の存在をアピールできる方がよい。	B (B)	これまで本校に関心を寄せなかった進学希望者、女子生徒への訴求力を高め、在校生や卒業生とその保護者の満足度を高めるように情報発信の方法、内容を工夫する。	
生徒の現状について保護者と連絡を密にし連携を図る。	B 3.1		B 3.0								